

未来を加速する挑戦

熊本市 中小企業等 DX アクセラレーション事業

DX事例集



お問い合わせ

[発行]

令和6年度中小企業等DXアクセラレーション事業(運営事務局:株式会社フォーバル)

〒860-8601 熊本市中央区手取本町1番1号
熊本市 経済観光局 産業部 経済政策課

Tel : 096-328-2950

Mail : keizaiseisaku@city.kumamoto.lg.jp

CONTENTS

03

CHAPTER

01 事業詳細

CHAPTER

02 支援事例紹介

04 株式会社ラディカ Googleフォームとスプレッドシートによるデジタル化

05 株式会社オーケープランニング 業務の標準化による業務効率改善

06 シルバーユニックス株式会社 Googleスプレッドシートによる業務効率改善

07 株式会社LUBRI&ONE LINE活用とデータ分析で変わるコミュニケーション革命

08 協電機工株式会社 業務プロセス改善による方向性の確立

09 株式会社馬場石油 DX推進における社内全体の意識改革

10 株式会社一畳屋 Googleworkspace活用によるセキュアな環境作り

11 株式会社アパレル福屋 基幹システム刷新

12 株式会社オフィス未来 作業インプットのデジタル化

13 株式会社熊本放送 地域のDXを牽引!放送局が取り組む業務改革の挑戦

14 RITAグループホールディングス株式会社 予実管理の仕組み構築

15 株式会社熊本シティエフエム 攻めの営業DX戦略

事業詳細

熊本市では、自社の経営課題等について、デジタル技術を活用し、業務変革等に取り組む市内中小企業等に対して、セミナーやワークショップの開催、専門コンサルタントによるメンタリング、及び社内におけるDX推進の担い手となる人材育成に係る研修等の伴走支援を実施することにより、DXを促進し、企業の生産性の向上や新たな価値の創出に取り組みました。

STEP
01

現状把握

ヒアリングの実施と直近3ヶ年決算書(最低で直近1ヶ年)を収集。現状把握を行います。

可視化

業務で扱う情報について流れ・媒体・受け渡し方法などをヒアリングします。その後、一覧表にて可視化(当社作業)いたします。

課題整理

診断結果を元に課題を整理。課題によって「DXによる売上拡大」「DXによる業務改善」「DXによるリスク回避」の3テーマに沿った短期～長期の目標を設定します。

STEP
02

計画書の作成

抽出した課題を解決するための計画書(ロードマップ)を作成し、対象支援企業と課題に対する意識、方向性を共有します。

STEP
03

補助や制度のご案内

ITツールの導入にかかる費用の補助として、公的機関の各種補助や助成制度を支援企業へご案内。また、担当するDXアドバイザーが導入したITツール提供先と連携することでツールをより活用できる環境を整え、課題解決を支援します。

STEP
04

効果測定・新たな課題の抽出

ITツール導入前と導入後について、専門的な観点から効果測定を実施します。STEP2「DX(デジタル化)計画の策定」にて作成したロードマップを元に進捗状況の整理・分析を行うことで、新たな課題への取り組み項目の割り出しを行います。

株式会社ラディカ

所在地 熊本県熊本市南区出仲間1-1-21

事業内容 介護福祉施設・保育園の企画・開発運営
介護福祉施設・保育園の企画・開発運営のコンサルティング

従業員数 150名

参加の背景

DXに関する知識が十分ではなく、興味本位から始めたものの、事業規模の拡大や従業員の増加に伴い、業務効率化の必要性を強く感じたため、DX支援を受けることを決断しました。特に、介護業界では行政手続きや書類管理の煩雑さが課題となっており、バックオフィスの整理とコスト削減を目的として支援を活用しました。

テーマ

Googleフォームとスプレッドシートによるデジタル化

伴走支援で取り組んだ内容

1 業務の可視化と課題整理

- これまでの業務フローを分析し、特に負担が大きい部分を特定。
- DXツールの導入に向けた準備として、現状の課題を整理。
- salesforthの導入を検討していたが、可視化したことでオーバースペックと判断することができた。



2 バックオフィス業務の最適化

- 請求書発行業務の電子化を検討(1日8時間×2名の作業負担軽減を目指す)
- これまで厨房へのオーダーを紙等でおこなっていたものをGoogleフォームとスプレッドシートを活用することによってペーパーレス化及び業務効率改善を実施。



3 電子契約の導入準備

- 介護業界の特性上、契約書の電子化には法律上の制約があるため、その対応方法を整理。
- 高齢者のメールアドレス取得が課題となり、SMS対応を検討。



今後の展望

DXの継続的な推進

- 業務のデジタル化を進め、ノンコア業務を削減し、コア業務に集中できる環境を構築。
- AIやRPAの導入を視野に入れながら、DXを段階的に進める。
- 介護業界特有の書類業務(行政向け提出資料など)の電子化・効率化を推進。

伴走支援を通しての感想

- 無償で専門家によるDX支援を受けられた。
- 業務の整理が進み、現状の課題が明確になった。
- 外部の視点から新たな気づきを得ることができた。
- 何をどうすればいいのかDXの方向性が明確になった。

株式会社オーケープランニング

所在地 熊本市東区画図町下無田1432-10

事業内容 秤の製造販売

従業員数 パート含め6名



参加の背景

本事業への参加のきっかけは、DX（デジタルトランスフォーメーション）に関心がありつつも、どのツールや方法が効果的なのか分からず、試行錯誤をしていたことにあります。ChatworkやTrelloなどのツールを導入していたものの、DXの方向性や効果的な活用方法が不明確でした。事業の案内を受け、「情報収集も兼ねて、専門家の指導を受けられるなら面白いのでは」と考え、参加を決めました。

テーマ

業務の標準化による業務効率改善

伴走支援で取り組んだ内容

1 業務の可視化と課題整理

- 業務プロセスが属人的で、チェック項目や基準が不明確だったため、標準化を進めた。
- パートスタッフが細かくチェックをしていたが、基準がなかったため、支援を通じて整理。

2 業務の標準化

- 製品の品質管理において、目に見えるデバイスの問題点は改善可能だが、プログラムのチェックが難しいという課題があった。
- AIを活用したデバッグツールの検討を行うも、難しさがあり、プログラムの書き換えが容易な環境を構築する方向に。
- Chatworkを活用した社員同士の意見交換の促進。
- 手順書の作成を進め、画像や動画を加えることで、誰でも同じ品質で作業できるようにした。

3 社員の意識改革と主体性向上

- これまで意見を言うことに消極的だった社員が、主体的に意見を持つようになった。
- DXの導入を進める中で、従業員が課題を共有し、解決策を模索する文化が醸成されつつある。
- 社員自らが業務プロセスの改善に取り組み、標準化の重要性を実感。



伴走支援を通しての感想

もやもやしていた課題が可視化された

- ◎「なんとなく効率が悪い」と感じていた業務の問題点を整理し、具体的に改善策を講じることができた。
- ◎業務プロセスのどこに無駄があるのかが明確になり、標準化が進められた

これまでのコンサルとは違い、継続的な支援があった

- ◎過去に補助金を使ったコンサルを受けたことがあったが、「最初に話をして終わり」というケースが多かった。
- ◎今回の伴走支援は、継続的なフォローがあり、具体的なアクションにつなげることができた。

企業文化の変化を実感

- ◎以前は社員が受け身で業務に取り組んでいたが、意見を出し合う文化が生まれつつある。
- ◎DXを活用することで、社員が課題を自発的に捉え、改善に取り組む姿勢が生まれた。

今後の展望

短期的目標（3ヶ月以内）

- ◎手順書の作成を完了し、標準化の定着を図る。
- ◎DXツールの活用をさらに進め、業務効率を向上させる。

中長期的目標（3～5年）

- ◎少人数体制でも高品質な業務遂行が可能な仕組みを構築する。
- ◎DXを活用し、スキルの低い・無い、もしくは初心者でも業務がこなせるような業務フローを確立。
- ◎新たな従業員を増やさずに、売上向上とコスト削減を両立させる。

最終目標（10年後）

- ◎DXをさらに深化させ、少数精鋭の組織で持続的な成長を実現。
- ◎人材不足に悩まされることなく、最小限の人員で最大限の成果を出せる体制を確立。

シルバーユニックス株式会社

所在地 熊本県熊本市東区八反田3丁目23番13号

事業内容 介護福祉事業所運営

従業員数 30名

参加の背景

本事業への参加のきっかけは、これまでデジタル化がほとんど進んでおらず、紙ベースでの業務が主流だったことにあります。特に、従業員の年齢層や業界特有の抵抗感もあり、DX（デジタルトランスフォーメーション）を進めることに対して不安を抱えていました。しかし、セミナーを通じてデジタル化の必要性を再認識し、伴走支援の存在を知ったことで、「まずは導入してみよう」との決断に至りました。

テーマ

Googleスプレッドシートによる業務効率改善

伴走支援で取り組んだ内容

1 情報共有の効率化

- 紙ベースの情報共有を改め、Googleスプレッドシートを活用
- タブレットの導入によるデジタル化の推進
- 施設内に大画面ディスプレイを設置し、職員がリアルタイムで情報を確認できる仕組みを構築

Before

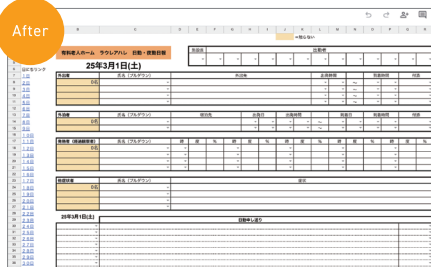


従来の申し送り書

2 業務効率化

- 入居者の体調管理や申し送りをスプレッドシートで一元管理
- 勤怠管理・給与計算をフリー（free）を用いてデジタル化
- 訪問介護の記録もデジタル化し、業務時間の削減を目指す

After



新しくタブレットで申し送り

3 意識改革

- 「デジタル化する」のではなく、「デジタルで現場の作業効率を変える」という考え方を浸透
- 終礼や朝礼で繰り返し目的を伝え、職員の抵抗感を軽減
- Excelとの違いを学びながら、Googleスプレッドシートの利便性を実感

今後の展望

短期的展望（3ヶ月以内）

デジタル化の定着を完了させ、業務フローの安定化を図る。

中長期的展望

- 業務の効率化をさらに進め、入居者へのサービス提供時間を増やす。
- デジタルツールに精通した人材の育成を進める。
- 介護業界の慢性的な人材不足に対応しながら、働きやすい職場環境を整備する。
- 最終的には、デジタル化を活かして選ばれる介護施設となり、収益の安定化を目指す。

伴走支援を通しての感想

デジタル化の抵抗感が軽減された

DXに対する不安があったが、伴走支援を受けたことで、「便利なもの」として受け入れやすくなった。特にタブレット導入により、スマホに慣れた職員が抵抗なくデジタルツールを活用できるようになった。

経営者自身の意識改革が進んだ

以前はDXに対する漠然とした不安があったが、支援を受けることで「デジタル化の必要性」が明確になった。業務効率化を通じて入居者サービス向上に繋げるというビジョンが明確化。

外部の支援が「踏み切るきっかけ」になった

DX化を検討しつつも足踏みしていたが、外部支援を活用したことで実際に導入を進めることができた。伴走支援がなければ「ここまで進められなかった」との実感がある。

株式会社LUBRI&ONE

所在地 熊本県熊本市中央区帯山6-7-101-1オリーブ帯山3号棟
事業内容 訪問看護事業、居宅介護支援事業、ACP普及活動事業
従業員数 9名



参加の背景

熊本市からのチラシをきっかけにセミナーへ参加。DXやデジタル化に興味はあったものの、何をすればいいのかわからなかったため、より深く学びたいという思いから伴走支援に申し込みました。

テーマ

LINE活用とデータ分析で変わるコミュニケーション革命

伴走支援で取り組んだ内容

1 LINE公式アカウント開設

LINEの公式アカウントを開設し、初めての人でもお問い合わせ無しで安心してご利用いただけるリッチメニューを構築しました。



タップすれば
Googleフォームへ。

COCCOLEAでできることや強みを確認してもらった後、相談したいとなった場合は、赤枠の部分を押してもらうだけでGoogleフォームに飛ぶように設定。そこで基本情報をお客様に入力してもらうようにしました。



2 GBP (Googleビジネスプロフィール) を作成しPR実施

LINE公式アカウントを開設しただけではLINE経由から相談も来ません。町の方に知ってもらい、友達を増やしていかなければならないため、まずはGBP (Googleビジネスプロフィール) を作成し自社とLINE公式アカウント開設のPRを実施。プロフィール欄も充実させ、Googleの検索順位を上げる施策を打っていきましました。



3 既存のLPやインスタも活用

支援が始まる前から自社で運用していたLPやインスタグラムも併せて活用し、LINE公式アカウントの集客につなげていきました。



その結果、1人の対応時間が
30分▶5分に短縮!

結果、開設から1か月で、
0人▶23人に増加!

GBPの活用により、
WEBサイトの閲覧やインスタグラムの
フォロワー増加中!

今後の展望

- データの活用(デジタルイゼーション)を進め、業務改善を加速。
- 公式LINEの登録者を増やし、住民が気軽に相談できる環境を整える。
- ITツールの活用をさらに進め、業務のDX化を深化。
- DXを推進する体制の強化と、社内のITリテラシー向上。

伴走支援を通しての感想

- 自分たちが「できている」と思っていた部分に多くの課題があることに気づけた。
- 無料で専門家のアドバイスを受けられ、実践的な支援が役に立った。
- Googleビジネスプロフィールや公式LINEの運用など、実際に成果が見える形でのサポートが非常に助かった。
- 伴走支援がなければ気づかなかったことが多く、支援を受けたことで具体的なアクションが取れた。